

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690500018		
法人名	医療法人 三幸会		
事業所名	ケアサポートセンター吉祥院		
所在地	京都市南区吉祥院里ノ内町71-1		
自己評価作成日	令和2年7月21日	評価結果市町村受理日	令和2年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2690500018-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク一期一会
所在地	京都市西京区西院久田町5番地
訪問調査日	令和2年8月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 本人が出来ることは奪ってしまわず、さり気なく見守り、その人の「今」を知り、職員間で共有に努めている。</p> <p>* 理念である「その人らしく」を念頭にチームとして同じ方向性を大事にケアにあたっている。</p> <p>* 本人の生活ペースを大事にし、したい、したくないを大切に考え、自発的で活動的な生活が送れるよう努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該事業所は、開設13年目となる1ユニットのグループホームです。1階には小規模多機能ホームが併設されています。住宅地に立地することから事業所内の駐車場でラジオを行い地域住民の居場所・交流の場となっています。(現在はコロナウイルス感染拡大防止のため休止中)また、自治会長のご厚意から災害訓練に利用者と一緒に参加し、利用者が避難することの大変さを体感してもらったり、事業所の存在を知ってもらう機会とするなど地域との関わりにも努めています。事業所の近隣には吉祥院天満宮があり緑が多く心地よい散歩のコースとなっています。事業所理念「一人ひとりがその人らしく」のもと、一緒に生活しているからこそ気付くことを職員間で共有してトライ&エラーを繰り返しながらケアに努めています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“その人らしく”の理念を共有できる様に努力している。“住み慣れた地域で自分らしく暮らしたい”を基本方針として、自分らしさの把握に努めたサポートをしている。	事業所理念「一人ひとりがその人らしく」を掲げ、社員証の裏面に記載して立ち戻ることができるようになっている。目先の課題やニーズに囚われていないかを個別に集めて話し合い、「その人らしい」ケアとなるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃への参加や、毎週日曜日に当事業所内の駐車場でラジを体操を行い、地域住民の居場所・交流の場となっているが、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止中。	小規模多機能ホームや看護と連携して地域住民や女性会の居場所(よろずや吉祥院)の実施に向けて取り組んでいる。また自治会で開催される災害訓練に参加することにより事業所の存在を知ってもらう機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『みなサポ』へ管理者が参加・活動を行っている。現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動制限あり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の開催は事前に家族へ案内を書面にて告知している。運営・事故ヒヤリハット・苦情・行事等の報告も行き、会議でいただいた意見・アドバイスは共有。活かす努力をしている。現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面会議にて実施。	家族、民生委員、地域包括支援センター、有識者(ケアマネが情報交換している小規模多機能型居宅介護事業所のネットワーク)の参加のもと、2か月に1回開催している。参加者には報告事項は書面で事前に行い、会議後は議事録を作成し送付している。利用者が参加できていないため、課題としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への呼びかけを行い、欠席時での会議録は提出している。	運営推進会議に地域包括支援センターの出席があり、アドバイスを獲得の機会となっている。議事録の提出は、直接、役所の窓口へ出向き、顔の見える関係づくりなどに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯のため、夜間のみ。ユニットの出入り口の施錠はしていない。三ヶ月に一回の【身体拘束について】の勉強会をケアカンファレンス内にて実施。事業所の年間研修計画に基づく研修も行っている。	身体拘束についての勉強会や、年間研修計画に基づいた研修を実施している。自由を奪う行為、言動、考え方が拘束になるということに理解が得られるように努めている。言葉かけは職員間で気をつけ、直接指摘をして言い換えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間事業所内研修計画に基づく研修の実施と共に、職員間で意識を高め合える様、注意し合える雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修の中で触れる機会はあるが、成年後見制度を利用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約書内容の説明・同意を得て、理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々の関わりの中で、例えば…食べたい物をメニューに取り入れれたり、些細なことから取り組んでいる。運営推進会議の出席率は低い。	利用者には日々のかかわりの中で聞き取りを行い、運営に反映をしている。家族については、新型コロナウイルス感染防止対策として、外のベンチでの対応となっているが、横に座り話す機会と捉えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケアカンファレンスと職員会議を各1回ずつ実施。その場での活発な意見はあまりない。	管理者は、ケアカンファレンスに参加して職員の意見や提案を聞くようにしている。また、シフト作成時に個別で話を聞く機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業計画に基づき、代表者と管理者の面談が行われていたが、現在は書面でのやり取りとなっている。この職員は直接、どの程度把握してもらっているかは良く見えていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は年間計画に基づき実施されているが、外部研修に関しては消極的。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都地域密着型サービス事業所協議会への参加の場はあるが、参加できていない。『みなサポ』のネットワークもあるが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活発な活動ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成へ活かせる様、日々の傾聴、各担当職員を中心としたモニタリングを毎月行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談での聞き取り及び、入居後も電話対応や面会時等にヒアリングするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ADLを把握しながら、医療との連携を取り、導入すべきものは利用できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や家事、レクリエーションを通じて、共に生活しているという意識を持つての関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の本人の生活の様子等を知らせるため、写真入りでの便りを各担当職員より送っている。現状を知ってもらう一つの手段ともなっており、共有できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との会話の中に出身地の話題や関わりのあった方々の話を取り入れるようにしているが、その場所へ行く機会は作れていない。	利用者本人との普段の会話から馴染みの人や場所の話を取り取るように努めている。以前実施していた年賀状の作成に今年は取り組む予定である。	介護相談員の活用については、資質上に問題がある相談員であった為、断った経緯があると伺ったが、再度活用されることを検討されてははいかがでしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座席の配置の考慮や、職員が間に入ってのつなぎ役をしたり、ADLの高い利用者が低い利用者のお世話を自発的にできるような環境づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望や必要性に応じての支援体制はとれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を決めており、毎月モニタリング、ケアカンファレンスを実施している。	担当職員を決めて毎月、モニタリング、ケアカンファレンスを実施している。また、日々のかかわりの中で把握に努め、計画への反映や具体的な支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談での事前情報や、入居後の本人・家族との会話の傾聴により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	医療との連携、職員間の申し送り、日々の記録により情報共有を行って把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは常勤職員の担当制としており、本人・家族はもとより、医療関係者の意見も参考に、必要時には臨時のカンファレンスも行い反映している。	毎月実施しているモニタリングとカンファレンスの記録は職員間で情報共有している。介護記録には利用者の様子、ケア実施時の表情や発言など気づきを記入することを大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過観察記録として、当日の職員が各々関わった記録を記入することで、他職員の目線での気づきも含め、情報共有ができています。ケアプラン番号を記入することで、ケアプランの意識付けもできるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて柔軟な対応を取っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望や状態を考慮し、かかりつけ医(往診医)を決定し、医療連携を取るようにしている。	本人・家族の希望を最優先し従来のかかりつけ医への通院が1名、事業所連携の医師で往診が8名いる。通院では本人の様子等記載したものを家族を通して医師に伝達、往診では職員が医師に伝え連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週一回あり。一週間毎の報告を行い、気軽に相談できる関係の構築ができています。また、緊急時の相談・指示を仰ぐことができる体制になっている。先方職員により意見が異なることもあり、困っている面もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に応じて情報交換やカンファレンスを行っている。介護サマリー・看護サマリー、主治医から入院先への診療情報提供書等のやり取りも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当職員を決めており、毎月モニタリング、ケアカンファレンスを実施している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成するとともに、重要事項説明書に記載し入居時に本人、家族に説明、話し合いを行っている。状態変化の際はその都度話し合って意向確認し、事業所ができることを伝えている。看護師が講師となり職員に終末期対応やスキルアップ研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え	訓練を行うことはしていないが、事業所内研修の年間計画に基づいて研修の実施をしている。		
35	(13)	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日中(水災害)・夜間(火災)想定での消防訓練を年二回実施している。地域への参加呼びかけはするが参加はほぼなし。AED使用訓練等も併せて実施している。現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域への声掛けは行っていない。	年2回消防訓練を実施している。また、運営推進会議で地域自治会の避難訓練への誘いがあり、積極的に利用者、職員等で参加したことで、地域とのつながりが出来つつあるが、現在コロナ禍で進展はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員により多少の差があるが、注意し合えるように努めている。	入居者一人ひとりを尊重する取り組みとして個々の状況を常に把握して共有するよう意識している。気づいたことはすぐにその場で職員間で声を掛け合い、一人ひとりを尊重した支援ができる雰囲気が構築されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が職員からの誘導にならないように注意し、言葉以外にも表情や仕草等の観察も行い、自己決定できる様に気長に待ちながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重しながら、体操やレクリエーションも無理強いにしないように注意しながら取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容や利用者によっては地域の美容室へ行っている。入浴準備時の服選びをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のリクエストを昼食メニューに取り入れることをしている。ADLによって、調理の下ごしらえや食器洗い、テーブル・お盆拭きもしてもらっている。	毎食食は手作りのため、日常の会話からリクエストが出ると取り入れるようにしている。入居者のほぼ全員が自分に合った作業を担うことで役割をもつことにつなげている。外食や出前は個別(誕生日)に実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者によって、摂取量の調整や食事形態の工夫をしている。10時のお茶の時間に好みの飲料を提供し、一日の摂取量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施。できにくい部分は介護にて行っている。歯科医師・歯科衛生士の訪問もあり、連携を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入し、各自の排泄パターンの把握を行うことで、トイレ誘導の声掛けを行ったり、適切なパッド選択に役立っている。	排泄表から個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導の声掛けをしている。夜間は例えば声掛け誘導か睡眠を優先するのかというように本人が何を優先したいかを大切に考え、その都度その思いに添った支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	、各自の排便パターンを把握し、主治医との連携を行い、必要に応じた薬剤調整をしている。予防としては、食事に繊維質の食材を使用したり、体操の実施をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回以上は入浴できる体制を整え、一緒に着替えを選んだり、入浴に向けての準備も大切にしている。“午後からの方が良い”等の希望に沿う形もある。入浴後のスポーツドリンクの提供もしている。	本人の体調や気分を優先して希望に沿うように入浴体制を整えている。洗ることがあっても職員の無理なくさりげない声掛けで入浴できている。衣類等の用意は、時間がかかっても自分でしてもらう様に促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の状況に応じて臥床時間(日中に)を設けたり、入床時間のタイミングも各自のペースに合わせている。		
47	ゆんぴ	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を各個人のファイルに綴じ、確認できるようにしている。症状の変化によって主治医への相談や処方してもらい、変更があった時は職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの興味や関心のあることを見出せる様に観察し、取り組めるようにチームで支援している。誕生日には好きなメニューを取り入れる等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や紅葉ドライブ等の年間行事としての企画や、近場の散歩や祭りへの参加等。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在はマスク着用にて、近場の散歩等がメインになっている。地域との協力には至っていない。	現在、遠出はできない状況ではあるが、事業所近隣にある吉祥院天満宮への散歩が良いコースとなっている。意思表示が乏しい人には一度外に出た時の様子を見て次を決めるようにしている。気分が乗らない人の場合は次のチャンスを伺ってトライしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が現金所持していることはなく、必要に応じて立替金での購入となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればいつでも利用してもらえる体制となっている。知人より届く手紙は本人へ渡している。自ら手紙を書く機会はほとんどない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度は過度にならない様、湿温計や体感を意識した設定にしている。季節感のあるディスプレイを心掛けている。	全体的に明るく清潔感のある空間となっている。共用部分でも1人になれる空間や少人数でいられるテーブルとイスが設置されている。テレビは二台を別々の場所に設置し、好きな番組を見ることができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室への入室・出室は自由に行ってもらっている。レクリエーションも各個人やグループ別に、本人の意思を尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた家具や馴染みの物を持参してもらえる様に話し、持参してもらっている。	全居室が畳敷きで落ち着いた雰囲気になっている。使い慣れた家具を持ってくる人や以前から置かれている家具やカーテンをそのまま活かしている人などそれぞれで自由に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札で個人の居室が分かる様にしている。動線に邪魔になる物を置かない等、転倒防止にも配慮している。		